

WIAS Discussion Paper No.2014-003

世襲政治家は有能か：国会活動データを用いた分析  
**Are Hereditary Diet Members Competent? :**  
**An Analysis of the Data of the Activities in the House of Representatives**

May 21, 2014

参鍋 篤司（早稲田大学高等研究所）

Atsushi SANNABE  
*Waseda Institute for Advanced Study,  
Waseda University, Tokyo, Japan*



1-6-1 Nishiwaseda, Shinjuku-ku, Tokyo 169-8050, Japan

Tel: 03-5286-2460 ; Fax: 03-5286-2470

# 世襲政治家は有能か：国会活動データを用いた分析<sup>1</sup>

早稲田大学高等研究所 参鍋篤司<sup>2</sup>

## 要約

本稿では、「国会議員の活動データを集積する会」が収集した、第45回の衆議院議員選挙で当選した衆議院議員の国会活動データを用いて、計量分析を行い、以下を確認した：野党議員一般に、国会での質問時間の長さ、議員立法提出数の多さは再選確率を高めるが、質問主意書の提出数は再選確率に影響を与えない。世襲議員は非世襲議員と比べて、かなり再選されやすい一方で、世襲議員と非世襲議員との間には、国会での活動量に差がない。

また世襲議員のうち、女性議員は活動量が少なく、官僚出身議員の活動量の多い傾向が観察された。

---

<sup>1</sup>本稿で用いたデータについて、鈴木崇弘（城西国際大学客員教授・中央大学客員教授）、磯山友幸（ジャーナリスト、熊本学園大学招聘教授）の各氏からご説明、コメントを頂きました。記して感謝いたします。本稿における誤りはすべて筆者に帰します。なお、本稿における意見等はすべて筆者個人のものであり、筆者の属する組織とは如何なる関連もありません。

<sup>2</sup> Corresponding author : Tel.:+81-3-5286-8416      E-mail: sannabe@aoni.waseda.jp

## 1. はじめに

日本の国会議員において、いわゆる世襲議員の占める割合が国際的に見て非常に高いことはよく知られた事実である。世襲議員が多くなることは、政治を志す様々な人間が議員となる機会を奪い、参入障壁を高くするデメリットが大きいという議論の一方で、世襲議員はジバン・カンバン・カバンのいわゆる三バンに恵まれているので<sup>3</sup>、どぶ板的選挙に大いなる時間を奪われることがなく、本来、国会議員が集中して行うべき、国会における活動に集中することができ、政策に詳しくなることができる、という議論もある。菅原(2012)は、選挙活動が厳しい選挙制度において、参議院議員の国会出席率が低下することを示している。

世襲議員の是非、というような議論を進めるためには、議員個々のパフォーマンスについての情報を含む変数が必要となるが、そうしたデータを集め、評価することが困難であることは論を待たぬところである。政治家はそれぞれの政治信念を持ち行動・発言するものであるので、パフォーマンスの評価者の政治的信条によりその評価は大きく異なったものとなることは明らかである。従って、評価する対象となるべき政治家のパフォーマンスは、その内容についてはさておき、国会における具体的な活動「量」(≒努力水準)にさしあたっては限定されるべきであろう。

しかし、そもそも、そうした活動量・努力水準は、国民には見えにくいものとなっており、情報の非対称性がある。そうした問題意識のもと、「国会議員の活動データを集積する会」(現・NPO 万年野党)が、人海戦術により衆議院における個々の議員の活動量についてのデータ集積を進めている。

本稿では、「国会議員の活動データを集積する会」が収集した、第45回の衆議院議員選挙で当選した衆議院議員の国会活動(質問回数・時間、質問主意書の数、議員立法提出数の三つ)におけるデータを用いて、①世襲議員は再選されやすいのか ②国会での熱心な活動は再選につながるのか ③世襲議員は、非世襲議員と比較して、より熱心に国会活動を行っているのか という点について、計量分析を行った。

① については、世襲議員は非世襲議員と較べて、かなり再選されやすいことがわかった。

②については、国会での質問時間が長くなるほど再選確率は高まり、それは比例ブロックを含んだ、より広いエリアにおいてその効果は強まる。質問主意書の提出数は再選回数に影響を与えない。議員立法の提出数は再選確率を有意に高める。その効果は、質問時間についてとは逆に、比例ブロックといった広いエリアにおいてはその効果は薄められ、小選挙区においてより効果的であることがわかった。

③については、世襲議員と非世襲議員との間には、国会での活動量に差がないことがわかった。また、サンプルを世襲議員に限定した時、女性議員は活動量が少なく、官僚出身議員の活動が活発である傾向が観察された。

---

<sup>3</sup> 世襲議員の選挙における有利さについては、上杉(2009)を参照されたい。

本稿の構成は、以下である。次節では、本稿で用いるデータセットについての説明を行う。次に第三節では、世襲議員は再選されやすいのか、国会での熱心な活動は再選につながるのか、について検討する。そして第四節では、世襲議員は、非世襲議員と比べて、より活動をしているのかについて検討する。最後に、第五節において結論及び考察を述べる。

## 2. データ

本稿におけるデータセットは、「国会議員の活動データを集積する会」が、第45回衆議院選挙で当選した衆議院議員について収集した、国会活動についてのデータを中心としている（東京プレスクラブ(2012)『国会議員三ツ星データブック』）。同書におけるデータと議員個人のホームページに記載された内容が異なる場合には、衆議院議員個人のホームページによる情報（生年、学歴等の情報）を優先している。また、世襲についてのデータは議員個人のホームページには載っていないことが多いために、八幡(2011)『世襲だらけの政治家マップ』、稲井田(2009)『世襲議員』の二つの書籍からの情報を基に作成した。また、それらの書籍に無い一部の情報が、議員個人について編集された wikipedia から得られた場合には、その情報も用いている。

国会議員の活動データを集積する会がまとめた、議員活動についてのデータセットの中心は、「国会質問」「質問主意書」「議員立法提出数」の三つからなっている。以下、それぞれ三つの変数についての、『国会議員三ツ星データブック』における説明のうち、本稿と関連する事項について引用する（斜字部分）。

### <国会質問の回数と所要時間>

- ・衆議院インターネット審議中継の「ビデオライブラリ」を基に集計しました。
- ・本会議及び委員会での発言のうち、議長による議事、趣旨説明、討論（党首討論も含む）などの発言を除外し、国会質問を集計しています。
- ・「回数」は、連続した質問であれば、1分の質問も2時間に及ぶ質問も、「1回」と数えています。
- ・「所要時間」は、答弁者の答弁の時間も含まれます。
- ・集計期間は、2010年（第174回常会）から2012年（181回臨時会）まで（2012年10月25日時点でビデオライブラリに掲載されていた範囲）です。

### <提出した質問主意書の数>

- ・衆議院ホームページの「質問主意書・答弁書」を基に集計しました。
- ・集計期間は、2009年（第172回特別会）から2012年（第181回臨時会）までです。

### <提出した議員立法の数と主な例>

- ・衆議院ホームページの「議案」および衆議院事務局からの情報提供を基に集計しました。
- ・集計期間は、2009年（第172回特別会）から2012年（第181回臨時会）までです。

### 3. 世襲と国会活動量の、再選確率への影響

衆議院議員の世襲の定義は、表 1 に示したとおりである。世襲の定義 5 以外は、親や祖父等が衆参両国会議員であれば世襲、三世代にわたる場合は貴族院議員を含んでいる。

**表1 世襲の定義**

世襲1	三世代にわたる世襲
世襲2	二世代にわたる世襲
世襲3	祖父からの世襲(親は議員でない)
世襲4	おじからの世襲(親は議員ではない)
世襲5	親が地方議員・首長
世襲6	配偶者の親が国会議員

そして、第 45 回衆議院選挙において当選した、民主党以外の衆議院議員が再選される確率が、どのような属性により決まったのかを示した回帰分析が、表 2 である。

表2 再選確率に及ぼす世襲・国会活動の影響

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)
	小選挙区出馬・当選		小選挙区出馬・当選(比例復活含む)		小選挙区・比例ブロック出馬・当選(比例復活含む)	
世襲1	<b>0.302***</b> (0.0695)		<b>0.191***</b> (0.0492)		<b>0.164***</b> (0.0418)	
世襲2	<b>0.249***</b> (0.0668)		<b>0.102**</b> (0.0509)		<b>0.0907**</b> (0.0447)	
世襲3	<b>0.263***</b> (0.0669)		<b>0.139***</b> (0.0398)		<b>0.119***</b> (0.0363)	
世襲4	<b>0.252***</b> (0.0647)		<b>0.124***</b> (0.0470)		<b>0.110***</b> (0.0421)	
世襲5	-0.00724 (0.219)		-0.0944 (0.181)		-0.0591 (0.159)	
世襲6	0.00398 (0.212)		-0.344 (0.282)		-0.356 (0.291)	
世襲ダミー		<b>0.374***</b> (0.0745)		<b>0.223***</b> (0.0576)		<b>0.190***</b> (0.0490)
質問時間 (z化)	<b>0.114**</b> (0.0517)	<b>0.116**</b> (0.0503)	<b>0.152**</b> (0.0644)	<b>0.150**</b> (0.0642)	<b>0.144***</b> (0.0540)	<b>0.146***</b> (0.0542)
質問主意書 (z化)	0.0417 (0.0277)	0.0377 (0.0277)	0.0174 (0.0225)	0.0167 (0.0213)	0.0207 (0.0195)	0.0196 (0.0199)
議員立法 (z化)	<b>0.259***</b> (0.0597)	<b>0.251***</b> (0.0623)	<b>0.120***</b> (0.0359)	<b>0.114***</b> (0.0435)	<b>0.106***</b> (0.0317)	<b>0.100***</b> (0.0386)
小選挙区で当選	-0.104 (0.0755)	-0.0977 (0.0758)	-0.00230 (0.0769)	0.0112 (0.0772)	-0.000372 (0.0656)	0.0101 (0.0671)
女性	-0.453*** (0.143)	-0.426*** (0.122)	-0.0414 (0.0790)	-0.0341 (0.0816)	-0.0360 (0.0736)	-0.0422 (0.0785)
年齢	0.0759* (0.0407)	0.0681* (0.0372)	0.0485 (0.0342)	0.0335 (0.0328)	0.0536* (0.0303)	0.0427 (0.0291)
年齢二乗	-0.000626 (0.000385)	-0.000570 (0.000355)	-0.000345 (0.000320)	-0.000216 (0.000316)	-0.000413 (0.000279)	-0.000321 (0.000276)
民間企業	0.143* (0.0771)	0.144* (0.0759)	0.0501 (0.0628)	0.0563 (0.0665)	0.0405 (0.0555)	0.0459 (0.0606)
研究者・シンクタンク	0.191* (0.102)	0.182* (0.105)	0.0703 (0.0695)	0.0753 (0.0675)	0.0485 (0.0663)	0.0518 (0.0632)
官僚(中央官庁・日銀)	0.280*** (0.0866)	0.277*** (0.0863)	0.117* (0.0627)	0.115 (0.0733)	0.114** (0.0519)	0.110* (0.0624)
地方議員・首長	0.229*** (0.0711)	0.230*** (0.0688)	0.111* (0.0623)	0.133** (0.0623)	0.0931* (0.0511)	0.110** (0.0527)
政治家秘書	0.228*** (0.0748)	0.232*** (0.0734)	0.0984* (0.0571)	0.0930 (0.0646)	0.105** (0.0503)	0.0998* (0.0567)
医師	0.161 (0.151)	0.149 (0.168)	0.0724 (0.118)	0.0810 (0.123)	0.0531 (0.116)	0.0559 (0.126)
弁護士	0.238*** (0.0719)	0.233*** (0.0756)	0.114* (0.0607)	0.126* (0.0650)	0.124*** (0.0442)	0.138*** (0.0495)
経営者	0.00687 (0.124)	-0.0122 (0.129)	-0.0993 (0.123)	-0.109 (0.127)	-0.117 (0.113)	-0.134 (0.121)
マスコミ	0.201** (0.0931)	0.195* (0.101)	-0.0114 (0.128)	-0.00638 (0.137)	0.0485 (0.0754)	0.0521 (0.0871)
地方公務員・NPO	0.0566 (0.136)	0.0503 (0.138)	0.119** (0.0569)	0.140** (0.0590)	0.116** (0.0478)	0.135*** (0.0516)
その他(タレント・作家)	0.0891 (0.171)	0.00292 (0.193)	0.126** (0.0491)	0.109 (0.0764)	0.108** (0.0474)	0.0889 (0.0777)
旧帝一工	0.132 (0.106)	0.185** (0.0852)	-0.108 (0.210)	0.0303 (0.126)	-0.0169 (0.137)	0.0588 (0.0900)
早稲田	0.113 (0.0827)	0.103 (0.0918)	0.130*** (0.0456)	0.125** (0.0501)	0.111*** (0.0406)	0.104** (0.0474)
慶応	0.0346 (0.136)	0.0471 (0.134)	0.0314 (0.0789)	0.0549 (0.0774)	0.0175 (0.0706)	0.0336 (0.0725)
高卒	-0.221 (0.339)	-0.196 (0.344)	-0.537 (0.420)	-0.473 (0.423)	-0.464 (0.464)	-0.418 (0.449)
MBA・修士	-0.0464 (0.137)	-0.0129 (0.135)	0.0119 (0.0786)	0.0457 (0.0749)	-0.00101 (0.0721)	0.0245 (0.0697)
理系	0.0230 (0.131)	0.0335 (0.133)	-0.0400 (0.129)	-0.0150 (0.112)	-0.0135 (0.0814)	0.00502 (0.0774)
中退	-0.190 (0.188)	-0.207 (0.178)	-0.297 (0.200)	-0.287* (0.164)	-0.415* (0.220)	-0.374** (0.181)
Observations	194	194	194	194	222	222
Pseudo R2	0.431	0.421	0.402	0.367	0.424	0.393
Log likelihood	-73.09	-74.41	-68.64	-72.62	-75.17	-79.17

Cluster-Robust standard errors in parentheses : \*\*\* p&lt;0.01, \*\* p&lt;0.05, \* p&lt;0.1

回帰分析にあたっては、クラスター・ロバストな標準誤差を計算している。クラスターは、10 の政党カテゴリーに対し、全国 11 の地域カテゴリーを掛け合わせたものを用いており<sup>4</sup>、本稿での回帰分析にはすべてこのクラスターを用いている。また、第 46 回選挙で引退を表明した人はサンプルから除いており、そうした人は 42 名である。そのうち、6 名が引退と同時に自身の選挙区から子息が立候補しており、6 名全てが小選挙区で当選している。これら 6 名のデータを加えないと、世襲の効果を測ることはできないと考え、それらの子息の学歴・職歴等に関するデータはすべてそれらの子息についてのデータを用い、国会活動についてのデータは引退した親のデータを用いて、サンプルに加えている。表 2 では、列(1)(2)では、小選挙区から立候補し、当選した場合 1 を、落選した場合 0 をとるダミー変数を被説明変数とした結果について示している。列(3)(4)は、小選挙区から立候補し、小選挙区での当選プラス、比例復活した場合も加えて 1 としたダミー変数を被説明変数とした分析結果である。列(5)(6)は、小選挙区と比例ブロックでの立候補者について、小選挙区で立候補・小選挙区で当選・比例復活して当選、比例ブロックで立候補・当選した場合を 1 とし、それ以外の、落選すべてを 0 とした被説明変数についての結果である。すべての結果は、他の説明変数を平均値とした場合の、プロビット分析の限界効果を示したものである。

表 2 からは、世襲 1 から世襲 4 まだが、再選されるうえで有利に働いていることが読み取れる。従って本稿では、世襲の定義は、世襲 1 から世襲 4 までの定義のどれかにあたる議員を今後世襲と定義する。表の列(2)(4)(6)は、この定義により作成した世襲ダミーの、再選へ及ぼす限界効果を測定したものとなっている。特に小選挙区での結果を示した列(2)では、その効果は 37.4%と非常に高い効果を持つことがわかる。

また、地方議員・首長、中央官庁官僚、弁護士出身者が再選されやすいことがわかる<sup>5</sup>

早稲田大学は比較的選挙に有利という結果が出ているが、慶応大学は後述するように世襲ダミーとの重複が多いことや、東京大学等のダミーが省かれていることなどからも考慮すると、学歴に関しての結果については、以後一定の留保が必要であろう。

国会での活動が再選確率に与える影響であるが、国会での質問時間が長くなるほど再選確率は高まり、それは比例ブロックを含んだ、より広いエリアにおいてその効果は強まるのがわかる。質問時間数が増えると、こうした活動はテレビ放映等のマスコミでの露出を通じて、より有権者に伝わりやすくなるので、こうした結果が得られたと考えられる。

また、議員立法の提出数は再選確率を有意に高めている。その効果は、質問時間についてとは逆に、比例ブロックといった広いエリアにおいてはその効果は薄められ、小選挙区

<sup>4</sup>重回帰分析における定式化の違いにより、クラスター数は変動している。クラスター・ロバストな標準誤差を算出することにより、各クラスターの fixed effect、およびクラスター内の系列相関の影響を除去することができる (Angrist and Pischke(2009))。

<sup>5</sup>東京大学及び京都大学出身者については、官僚出身ダミーとの強いマルチョコが発生したため説明変数から除いている。

においてより効果的であることがわかった。こうした活動は、小選挙区のような狭いエリアにあっては、議員の政策立案能力についてよりアピール力を持つが、広範囲な比例ブロックではその効果は、質問時間とは対照的に弱まることを示すと考えられる。その一方で、質問主意書の提出数は再選回数に影響を与えていない。質問主意書は、その提出が議員立法提出に比べて比較的容易であると考えられるし、またその活動もアピール材料にはなりにくく有権者に知られる機会が少ないためと考えられよう。

表3 記述統計								
Variable	平均値		標準偏差		Min	Max	Min	Max
	世襲	非世襲	世襲	非世襲	世襲		非世襲	
女性	0.10	0.11	0.30	0.31	0	1	0	1
年齢	53.39	52.11	11.03	10.81	28	75	27	80
当選回数	<b>5.49</b>	3.15	3.39	2.42	1	14	1	14
職業経験								
松下政経塾	0.01	<b>0.08</b>	0.11	0.27	0	1	0	1
民間企業	<b>0.43</b>	0.27	0.50	0.45	0	1	0	1
大学・シンクタンク	0.06	0.08	0.23	0.28	0	1	0	1
官僚	0.09	<b>0.16</b>	0.29	0.37	0	1	0	1
地方議員	0.16	<b>0.30</b>	0.37	0.46	0	1	0	1
政治家秘書	<b>0.45</b>	0.21	0.50	0.41	0	1	0	1
医師	0.00	0.02	0.00	0.15	0	0	0	1
弁護士	0.05	0.04	0.21	0.20	0	1	0	1
経営者	0.08	0.11	0.27	0.31	0	1	0	1
マスコミ	<b>0.13</b>	0.07	0.33	0.25	0	1	0	1
地方公務員・団体	0.05	<b>0.12</b>	0.21	0.32	0	1	0	1
その他(タレント等)	0.02	0.03	0.15	0.17	0	1	0	1
所属政党								
民主党	0.26	<b>0.55</b>	0.44	0.50	0	1	0	1
自民党	<b>0.52</b>	0.18	0.50	0.39	0	1	0	1
公明党	0.01	<b>0.05</b>	0.11	0.22	0	1	0	1
社民党	0.00	0.02	0.00	0.12	0	0	0	1
共産党	0.00	0.02	0.00	0.15	0	0	0	1
維新	<b>0.05</b>	0.01	0.21	0.11	0	1	0	1
みんな	0.03	0.01	0.18	0.11	0	1	0	1
国民新党	0.00	0.01	0.00	0.09	0	0	0	1
国民の生活	0.09	0.10	0.29	0.30	0	1	0	1
離党・無所属	0.03	0.07	0.18	0.25	0	1	0	1
学歴								
東大	0.19	0.21	0.40	0.41	0	1	0	1
京大	0.00	<b>0.05</b>	0.00	0.22	0	0	0	1
旧帝一工	0.03	0.07	0.18	0.25	0	1	0	1
早稲田	0.11	0.15	0.32	0.36	0	1	0	1
慶応	<b>0.25</b>	0.06	0.44	0.24	0	1	0	1
その他大学	0.41	0.43	0.49	0.50				
高卒	0.00	<b>0.04</b>	0.00	0.20	0	0	0	1
大学院	0.13	<b>0.20</b>	0.33	0.40	0	1	0	1
理系	0.06	<b>0.15</b>	0.23	0.36	0	1	0	1
中退	0.05	0.05	0.21	0.22	0	1	0	1
サンプル数: 世襲は88、非世襲は390								



また表には掲載していないが、これらの活動量を主成分分析により一つの指標にまとめ、説明変数として用いた場合、その影響は有意水準 1%以下で有意である。主成分分析の結果については、次節で詳述する。以上の分析結果に基づけば、国会議員にとって、国会活動は選挙にまったく関係のない活動であるということはないことがわかった。しかし、国会活動量と再選確率には、内生性の問題、即ち当選する確率が高かったから、国会活動に専念することができた、という逆の因果性の存在する可能性もある。今後の研究課題として、適切な操作変数を用いた分析が行われる必要があろう。その他の結果については、表 2 を参照されたい。

上の結果を受けて、世襲議員と、その他の議員の属性について比較した記述統計表が、表 3 に示されている。

世襲議員とその他の議員について、それぞれの変数の平均値の片側検定の結果が 5%水準で有意である場合、大きい方の数値が太字となっている。

結果を見ると、平均年齢には差がみられないが、世襲議員の平均当選回数は有意に多く、政治家としての経験を重ねやすい様子が見て取れる。これは、党内において昇進のしやすさといった面で有利に働くと考えられる。

学歴については、大学学部の情報を中心としている。MBA や修士号を持つ場合は、大学院ダミーが 1 となっている。また、卒業学部が理系である場合、理系ダミーを 1 としている。記述統計表からは、世襲議員には慶応大学卒業者の割合が有意に多いことがわかる。

一方で、理系や大学院卒業者は世襲議員には少ない。職業については、各議員が国会議員として初出馬するまでに経験した職業すべてをカウントしている。また、所属政党については、世襲議員は圧倒的に自民党に多いことがわかる。これは戦後、政権与党としての歴史の長さからきていると考えられる。

学歴、職業、所属政党から、記述統計表が示している通り、一つの典型的な世襲議員のキャリアのパターンが示される。即ち、慶応大学を卒業したのち、民間企業・マスコミに就職をし、主に父親の秘書を経験し、父親等の地盤を受け継ぎ、自民党から出馬する、というパターンである。

#### 4. 国会での活動量を規定するもの

国会での活動は、前述したように、三つの要因からこれを計測する。国会での質問は、以下では主に、任期期間中の質問の（総）時間を用いる。回数よりも、そちらの方が活動量の把握に適していると判断したからである。質問主意書、議員立法は、任期中に提出した総数を用いている。

国会での活動は与党、野党によりその性質が異なるため、民主党議員と非民主党議員の二つに分けて、主に非民主党議員についての国会活動について考察する。それぞれの指標の関連性について考察し、統合的な国会活動指標を算出するため、質問回数、質問時間、

質問主意書、議員立法について、主成分分析を行い、第一主成分の結果を用いて各数値を合成し、総合努力水準を作成した。主成分分析の結果は、表4に示されている。

表4 主成分分析 サンプル数:241				
	Eigenvalue	Difference	Proportion	Cumulative
comp1	2.114	1.13	0.529	0.529
comp2	0.989	0.165	0.247	0.776
comp3	0.824	0.752	0.206	0.982
comp4	0.072	.	0.018	1
	comp1	comp2	comp3	comp4
質問回数	0.644	0.014	-0.3257	0.692
質問時間	0.661	-0.028	-0.2191	-0.718
主意書	0.206	0.858	0.47	0.012
議員立法	0.326	-0.513	0.79	0.079

第一主成分は全体的な傾向を示すものである。三つの活動についてバランスよく活動をする傾向を示している。第二主成分は、主意書を重視し、議員立法はしない、という傾向を示している。政府に対してその活動を問いたすことに重きを置き、自分の政策を立法という形で示すことは軽視しがちな傾向ということになる。第三主成分は、議員立法を重視・質問はしない、というタイプの傾向を示している。質問という形で政府に問いたす、というスタイルではなく、自ら立法することで主張をし、補完的に主意書を提出する、というスタイルの活動を行っている、と解釈されるだろう。

主成分分析の結果からは、各活動が必ずしも互いに代替的ではないことがわかる。即ち、これらの活動のうち一つが増えればほかの活動がおざなりになる、という性質は基本的にはない<sup>6</sup>。

さて、非民主党議員について、世襲と非世襲議員に分けた場合、両者の活動量・努力水準に差があるか、tテストを行った結果は、表5に示されている。

表5 世襲と非世襲:国会活動の比較、t検定									
	サンプル数	国会質問時間		質問主意書		議員立法提出数		総合努力水準	
		平均	標準誤差	平均	標準誤差	平均	標準誤差	平均	標準誤差
非世襲	176	658.27	55.85	8.23	2.53	1.43	0.17	0.732392	0.135626
世襲	65	527.32	95.30	10.42	5.69	1.71	0.27	0.474416	0.25391
combined	241	622.95	48.25	8.82	2.40	1.51	0.14	0.662814	0.12036
diff		130.95	108.62	-2.18	5.41	-0.28	0.32	0.257976	0.271251

結果はすべてにおいて非有意であり、両者の平均値に差があるとは認められなかった。

単純な平均値の比較では両者に差がみられなかったが、次に、職業経験や学歴等の諸条件をコントロールした上で、世襲議員と非世襲議員との間の活動量に差があるのか、重回帰分析を行った。結果は、表6に示されている。

<sup>6</sup> もっとも、国会外での再選に向けた選挙運動やメディア出演等との代替性があるのかどうかについては、データ上の制約からわからないと言わざるを得ない。

表6 国会活動量の規定要因についての回帰分析

被説明変数 推計手法	(1) 総合努力水準 OLS	(2) 質問時間 OLS	(3) 質問回数 OLS	(4) 主意書 Tobit	(5) 議員立法 Nbreg
世襲ダミー	0.519 (0.343)	180.5 (121.0)	5.097 (5.217)	11.62 (15.52)	0.335 (0.288)
女性	-0.363 (0.387)	-35.69 (148.2)	-3.926 (6.731)	-34.03* (18.11)	-0.544* (0.313)
年齢	0.0850 (0.113)	66.47 (44.77)	0.313 (1.951)	1.890 (6.543)	0.232** (0.107)
年齢二乗	-0.00120 (0.00100)	-0.763* (0.402)	-0.00973 (0.0168)	-0.0409 (0.0588)	-0.00205** (0.00100)
民間企業	0.213 (0.232)	94.61 (94.08)	4.551 (3.544)	-21.28* (12.32)	0.400* (0.243)
研究者・シンクタンク	0.549 (0.437)	202.6 (149.8)	5.844 (6.515)	8.884 (25.11)	0.826* (0.492)
官僚(中央官庁・日銀)	<b>0.983**</b> (0.391)	<b>445.6***</b> (132.2)	<b>12.53**</b> (5.947)	-1.104 (17.92)	<b>0.738**</b> (0.356)
地方議員・首長	<b>0.853*</b> (0.431)	<b>322.9**</b> (154.6)	<b>12.78*</b> (7.541)	<b>34.90**</b> (17.18)	0.0744 (0.203)
政治家秘書	0.123 (0.291)	56.82 (105.3)	3.090 (5.160)	5.305 (9.467)	-0.0811 (0.208)
医師	2.056 (1.492)	914.5 (555.4)	42.54 (28.41)	39.20 (36.91)	-17.31*** (0.726)
弁護士	0.610 (0.619)	301.4 (234.1)	9.345 (8.844)	9.226 (20.29)	0.160 (0.544)
経営者	-0.576 (0.372)	-176.7 (143.9)	-8.625 (5.575)	-14.97 (16.84)	-0.486 (0.313)
マスコミ	0.889 (0.801)	406.2 (285.5)	17.52 (15.28)	-9.398 (16.49)	0.192 (0.369)
地方公務員・NPO	<b>1.451***</b> (0.442)	<b>597.3***</b> (181.5)	<b>26.23***</b> (7.483)	-18.04 (11.57)	<b>0.725**</b> (0.364)
その他(タレント・作家)	1.831 (1.429)	718.9 (596.9)	22.61* (12.47)	26.82 (41.77)	0.668 (0.592)
旧帝一工	-0.635 (0.488)	-193.5 (208.8)	-6.639 (7.253)	4.771 (23.40)	-0.907** (0.440)
早稲田	-0.420 (0.375)	-141.5 (149.5)	-7.908 (5.219)	-43.28*** (12.64)	0.326 (0.301)
慶応	-0.483 (0.314)	-105.0 (127.1)	-7.325 (4.800)	-19.65 (13.68)	-0.369 (0.251)
高卒	0.424 (0.770)	179.5 (305.2)	15.49 (15.56)	-36.02* (21.72)	-0.440 (0.708)
MBA・修士	0.190 (0.285)	125.9 (121.0)	3.250 (4.540)	19.36 (14.56)	-0.699** (0.322)
理系	-0.407 (0.373)	-111.0 (158.8)	-6.487 (5.883)	-33.99** (17.15)	-0.0585 (0.336)
中退	0.211 (0.365)	32.69 (143.3)	1.717 (6.409)	7.707 (17.02)	0.270 (0.285)
46回不出馬	0.478 (0.474)	180.8 (180.0)	6.850 (6.891)	11.81 (17.75)	0.130 (0.314)
46回比例出馬	<b>1.545***</b> (0.456)	<b>682.6***</b> (177.9)	<b>28.32***</b> (7.850)	-10.20 (17.42)	0.0619 (0.335)
第45回で小選挙区当選	-0.786*** (0.287)	-300.6*** (103.1)	-10.16** (4.844)	-28.21** (13.26)	-0.266 (0.176)
Constant	-0.831 (3.037)	-947.3 (1,206)	24.10 (53.48)	13.17 (192.0)	-6.126** (2.888)
sigma				56.30*** (9.676)	
Inalpha					0.327 (0.211)
Observations	241	241	241	241	241
R-squared	0.298	0.313	0.322		
Log likelihood	-449.6	-1891	-1113	-587.7	-382.4

Cluster-Robust standard errors in parentheses : \*\*\* p&lt;0.01, \*\* p&lt;0.05, \* p&lt;0.1

回帰分析手法については、列(4)では、被説明変数が質問主意書提出数であり、多くの0の値を含んでおり、そもそも主意書を出すという活動をする、という意味決定の要素も含んでいると考えられるので、トービット分析を行っている。列(5)は、被説明変数が議員立法提出数であるが、同様に0を多く含む一方、0より大きい値が少ない傾向にある一方で、平均と分散の値が等しいとは認められないのでポワソン回帰分析ではなく、負の二項回帰分析を行っている。

結果は、中央官僚、地方議員、地方公務員・NPO経験者が活発に活動をしていることを示している。官僚、地方公務員は、現役官僚に負担の大きい主意書を活動手段としてそれほど用いていないことがうかがえる一方で、地方議員経験者は大いに活用している様子がわかる。また、次回選挙において、比例で出馬する人は、質問時間・回数が多くなっていることがわかり、先ほどの再選確率の分析結果と整合する結果となっている。

しかし、世襲の効果はここでも見られなかった。

なお、世襲議員と非世襲議員の国会活動量の差についてさらに詳しく検討するために、Heckman, Ichimura and Todd(1997, 1998)によるkernel based matchingを行い、世襲の効果(Average Treatment Effect)をより厳密に取り出そうとする試みも行ったが、ここでも両者の努力水準の間に差はなかった。

結果として、世襲議員は、その再選確率は高く、国会活動に割ける時間が相対的に多いと考えられるにもかかわらず、そうした傾向は観察されなかったと言えよう。この結果は、議員の効用関数の在り方ともかかわっていると考えられる。議員の時間資源が、選挙関連活動と国会活動の二つに分けられた場合、選挙活動に投じる一単位の時間増加が上昇させる再選確率が、世襲議員の場合はより高くなるとすると、それは将来の期待所得を上昇させるので、代替効果としてはさらにより多くの時間資源を選挙活動に投入するインセンティブをもたらす。一方、所得効果については、国会関連活動が上級(正常)財であるならば、選挙関連活動ではなく国会活動が増える可能性がある。しかし実際にはそうでないので、国会関連活動は上級財ではないと考えられる。また、選挙活動と国会活動が線型効用関数のような形で表現され、選挙活動の方が国会活動よりも再選確率を高めるならば、国会活動は外生的にどうしても行わなければならない最小限の時間を超えて増えることはない。こうした観点から結果を解釈すれば、議員にとって、選挙関連活動は非常に重要なので、再選確率が上がったとしてもさらに時間を選挙活動に注力するようになるだけであることを示唆する。

あるいは、強力な後援会組織(ジバン)・資金管理団体(カバン)を世襲議員が持っていたとしても、それに関連する人々との連絡・相談に相応の時間がかかっている、あるいは他の政治家への応援に行かねばいけない時間が増える、党幹部としての運営の仕事が増えるといった理由により、国会活動に割ける時間が結局は限られている可能性もある。

もし、再選に向けて必要とされる選挙関連の活動時間が固定的で一定だとすると、国会での活動量の多さは、議員の有能さのシグナルとして機能するといえる。つまり、国会活

動に投入する時間が一定である場合、より国会活動をしている人は、時間当たりの生産性が高い、ということになる。従って、サンプルを世襲議員に限ることにより、有能な議員のタイプについての示唆が得られるであろう。また、ひとくくりに世襲議員の活動が平均的に見て不活発なものであったとしても、世襲議員の中には活発に活動をしている議員もあり、そうでない議員も存在する。従って、世襲議員の中で活動量が多いのはどのような議員なのか、検討することが必要となるだろう。その回帰分析の結果は、表7に示されている。表7の列(4)では、表6において質問主意書提出数が被説明変数である時、トービット分析を行ったが、サンプル数の少なさと値が0以上であるサンプルの数が少なかったため、議員立法提出数と同じく、負の二項回帰分析を行っている。この結果からは、世襲の女性議員のパフォーマンスが高くないこと、そして世襲の官僚出身議員のパフォーマンスの高いことが読み取れよう。また表として掲載はしていないが、逆に、サンプルを非世襲議員に限定し同様の回帰分析を行った時、女性議員のマイナスは消え、官僚出身者のプラスの効果も消える傾向がある一方で、民間企業経営者出身者の効果はマイナスになる傾向が観察されている。こうした結果の持つ意味についての考察は、次節で行う。

表7 世襲議員の国会活動量の規定要因についての回帰分析

	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)
被説明変数	総合努力指標	質問時間	質問回数	主意書	議員立法
推計手法	OLS	OLS	OLS	NBreg	NBreg
女性	<b>-3.011**</b> (1.266)	<b>-1,028**</b> (467.1)	<b>-45.12*</b> (24.76)	<b>-6.167***</b> (1.679)	<b>-1.168**</b> (0.532)
年齢	-0.0495 (0.188)	-22.73 (69.46)	-2.529 (3.644)	0.304 (0.269)	0.262** (0.117)
年齢二乗	-1.46e-05 (0.00173)	-0.0245 (0.643)	0.0161 (0.0340)	-0.00375 (0.00266)	-0.00224** (0.00103)
民間企業	0.0418 (0.596)	78.92 (196.4)	0.656 (8.085)	-0.0416 (1.314)	0.499 (0.603)
研究者・シンクタンク	-0.487 (0.852)	-89.15 (283.8)	-3.427 (17.82)	-0.329 (1.583)	-0.741 (0.971)
官僚(中央官庁・日銀)	<b>1.462**</b> (0.635)	<b>608.9**</b> (245.4)	<b>16.21*</b> (9.140)	0.921 (0.814)	<b>1.178**</b> (0.596)
地方議員・首長	1.741 (1.328)	439.4 (496.7)	27.82 (25.72)	4.160*** (1.115)	-0.171 (0.462)
政治家秘書	0.536 (0.818)	197.8 (284.7)	10.13 (14.90)	0.464 (0.453)	0.0841 (0.301)
医師	なし				
弁護士	-0.00374 (0.814)	245.9 (315.9)	6.817 (11.75)	-0.611 (0.657)	-1.246 (1.136)
経営者	-0.380 (0.907)	39.15 (390.2)	-7.925 (12.52)	-1.839*** (0.693)	-0.376 (0.402)
マスコミ	1.752 (1.576)	738.2 (537.9)	36.01 (29.08)	-2.714** (1.188)	0.509 (0.691)
地方公務員・NPO	1.511 (1.325)	556.1 (543.5)	16.70 (14.05)	0.743 (1.071)	1.047 (0.674)
その他(タレント・作家)	なし				
旧帝一工	-1.012 (1.054)	-347.7 (366.5)	-21.36 (18.89)	16.53*** (2.608)	17.81*** (1.629)
早稲田	-1.724 (1.015)	-674.1* (361.6)	-27.06 (17.83)	0.963 (0.968)	-0.310 (0.785)
慶応	-0.710 (0.577)	-146.2 (190.3)	-10.86 (8.411)	-0.208 (0.542)	-0.272 (0.491)
高卒	なし				
MBA・修士	0.436 (0.458)	249.1 (219.7)	6.408 (7.214)	1.073* (0.598)	-0.603 (0.440)
理系	0.249 (1.233)	128.5 (450.9)	14.63 (22.49)	-17.15*** (1.864)	-19.37*** (1.538)
中退	0.862 (1.292)	226.1 (475.2)	13.22 (18.64)	3.179*** (1.091)	0.639 (0.740)
第46回で不出馬	2.183* (1.118)	1,106** (456.8)	33.96* (17.27)	-20.36*** (2.193)	-0.377 (0.963)
第46回で比例出馬	なし				
小選挙区で当選	-1.161 (0.994)	-498.5 (351.9)	-23.72 (18.48)	-0.490 (0.770)	-0.205 (0.460)
Constant	3.574 (5.390)	1,918 (1,952)	113.5 (102.0)	-5.217 (7.104)	-7.036** (3.382)
Inalpha				0.861** (0.373)	-0.728** (0.348)
Observations	65	65	65	65	65
R-squared	0.461	0.474	0.447		
Log likelihood	-118.2	-502.7	-301.1	-100.6	-102.1

Cluster-Robust standard errors in parentheses : \*\*\* p&lt;0.01, \*\* p&lt;0.05, \* p&lt;0.1

## 5. 結論

本稿においては、国会における活動を、議員の努力水準・生産性・あるいはそのプロキシとみて分析を行った。こうした指標は見方を変えれば、国政に対する影響度を反映したものと捉えなおすこともでき、そのような場合、本稿における分析結果の含意も、違う角度から得られるだろう。国会質問を行う機会が、党執行部の差配により決まる部分が相当あれば、こうした見方の重要性も増す。即ち、単純に努力水準の値が高い人々に投票すべきか、と言えばそうではないかもしれない。努力水準指標が高い議員は、中央官庁官僚、地方議員、地方公務員等の出身者の男性が占めていたことから、こうした人々の声が強い、即ち影響力の強い政治が行われることにつながると考えられる。そうした政治は旧態依然たる 55 年体制における政治の姿そのままともいえる。世襲が強い現状が維持されることとなれば、「男性中心・官僚中心」といった政治体制が維持されていくことになる可能性があり、そうした政治が今後の日本にとってはたして望ましいものかどうかといった観点から、国会議員の世襲についての議論が必要となると考えられる。

本稿で用いた国会活動に関するデータについて、改善の余地が大いにあることは論を待たぬところである。また、実際の選挙関連活動（例えば、どぶ板的選挙活動）にどの程度の時間が投入されているのか、あるいは国会外の政治活動にどれほどの時間が割かれているのか、といったデータも必要となろう。現在、NPO 万年野党の会は質問の質的な評価を行うデータを構築中ということであり、そうしたデータが整備されれば、さらなる分析が可能となろう。本稿を、国会議員の活動の客観的な評価に向けた一歩としたい。

## 参考文献

- Angrist, Joshua D. and Pischke, Jorn-Steffen (2009) “Mostly Harmless Econometrics : An Empiricist’s Companion,” Princeton University Press.
- Heckman, James. J., Ichimura, Hidehiko and Todd, Petra (1997) “Matching as an Econometric Evaluation Estimator: Evidence from Evaluating a Job Training Program,” Review of Economic Studies 64, pp. 605-654.
- Heckman, James. J., Ichimura, Hidehiko and Todd, Petra (1998) “Matching as an Econometric Evaluation Estimator,” Review of Economic Studies 65, pp. 261-294.
- 上杉隆(2009)『世襲議員のからくり』文藝春秋.
- 菅原琢(2012)「データで政治を可視化する」 荻上チキ+SYNODOS 編『日本の難題をかたづけよう』光文社、所収.
- 八幡和郎(2011)『世襲だらけの政治家マップ』廣済堂.
- 稲井田茂(2009)『世襲議員』講談社.
- 東京プレスクラブ編(2012)『国会議員三ツ星データブック』東京プレスクラブ.